

## 普及活動情勢報告（令和6年4月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

### 発芽期はやや早め ～ユズの発芽調査を実施～



発芽状況を確認する  
普及指導員

農業改良普及課では、毎年3月末から4月にかけてユズの発芽調査を実施しています。

調査では、JA営農指導員とともに、JA高知県安芸地区管内の4市町村計19園地の調査圃場を巡回し、圃場ごとの発芽期を調査しています。

令和6年の管内におけるユズの発芽期については、地区によるばらつきが見られるものの、平均すると4月10日ごろと、平年から6日程度早い発芽期となりました。

今後は、発芽調査結果とともにユズの生育状況や開花期以降の防除について、JA部会員向けに配布している「ユズ栽培管理だより」や各支部講習会で周知するなど、春先の防除の徹底について指導していきます。

### 地域の農地と景観を守っていくために～大原・西ノ平地区集落座談会～



集落ビジョンの  
検討を行う様子

3月26日、奈半利町大原・西ノ平生活改善センターで、有望品目の栽培を契機とした集落営農の組織化に向けた集落座談会を開催し、地域の耕作者及び関係機関ら8人が参加しました。

農業改良普及課は、組織化までのスケジュールや集落ビジョンを説明しました。集落ビジョンの検討では、参加者から「道路から見えるところは守っていきたい」「地域の景観がいいことは強みである」などの意見が上がりました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、組織化に向けて支援していきます。

### 農薬散布を手軽に実現！常温煙霧機の紹介 ～芸東キュウリ部会現地検討会～



農薬の省力化技術を  
紹介する普及職員

4月5日、JA高知県芸東集出荷場キュウリ部会は現地検討会を開催し、関係機関を含め6人が参加しました。

農業改良普及課室戸支所から農薬散布の省力化につながる常温煙霧機について紹介したところ、参加者から「農薬散布は体力的にしんどい。ぜひ入れたい！」と導入に前向きな声も上がりました。

農業改良普及課室戸支所は今後も省力化につながる技術や情報を提供し、導入に向けて支援していきます。

就農支援体制の更なる充実を目指して ～研修生受入に向けた安芸市指導農業士会～



研修内容について説明する  
普及指導員

4月8日、研修生を産地で受け入れ育成する体制を強化するために、就農希望地の指導農業士が研修希望者と面談、意見交換し、受け入れ先を決定する指導農業士会を安芸市担い手支援総合協議会主催で初めて開催しました。

農業改良普及課は受入農家の役割や研修中に身につけてほしい知識・技術等について説明しました。あわせて研修希望者と研修中に学びたい内容や就農後のビジョンについての意見交換を行い、研修希望者との面談終了後、指導農業士と関係機関で協議し、受け入れ先を決定しました。

農業改良普及課では、就農支援体制の強化に向け、指導農業士、関係機関と連携し継続して取り組みを行います。

持続可能な生産活動を目指して ～安芸集出荷場運営委員会～



運営委員会の様子

4月11日、安芸集出荷場運営委員会が開催され、農家運営委員や行政機関の出席のもと各品目の販売動向、集出荷場運営に関することなどを協議しました。そのなかで農業改良普及課は「みどりの食料システム法」について、委員の知識向上に向けた勉強会を開催しました。

委員からは、「持続可能な農業は社会的責務。産地全体で取り組みを検討したい」等の前向きな意見が出ました。

農業改良普及課は引き続きみどりの食料システム戦略を産地、関係機関と協力して推進していきます。